

校長室の窓から ～夢の扉第9号～vol. 59 R3. 5. 31 (月)

弓道部男子優勝、女子2位に輝く。

文責 学校長



～佐賀県高等学校総合体育大会が行われました。～

1 バドミントン男子・女子ともに3位、テニス男子3位、バスケ男子決勝リーグへ進出。

先週金曜日(5/28)から「佐賀県高等学校総合体育大会」が開幕しました。初日の28日には男女バドミントン部と男子テニス部が団体戦3位に輝きました。29日には少林寺拳法部が男女団体演武と男女組演武で優勝に輝き、男子バスケット部がベスト4に入り決勝リーグに進出しました。30日には決勝リーグに駒を進めた弓道部男子が優勝し全国大会の切符を手にしました。また弓道部女子が2位に輝き、九州大会出場権を手にしました。なお個人競技では陸上、水泳、弓道等で上位入賞し九州大会への切符を手にしました。個人競技種目の詳細は紙面の都合で次週紹介します。



2 武雄市出前講座を開催しました。(1年・探究学習)

5月25日(火)の「総合的な探究の時間」に1年生を対象として、武雄市役所の職員の方々の協力で「武雄市出前講座」を実施しました。講座は全部で9講座(防災減災課・文化課・ハブ都市新幹線課・佐賀県国際交流協会・新たな学校づくり推進室・武雄市図書館こども図書館・健康課・商工観光課・環境課がそれぞれ担当)が開設され、各自希望の2講座を受講しました。武雄市の先進的な取組などを聞き、自分たちの郷土の未来について考え学ぶ良い機会となりました。



3 今週の名言・・・福岡堅樹選手(ラグビー)の言葉です。

○自分の夢には妥協したくない。後悔のない選択をしていった先にあるのが、結局、自分がなりたかった自分になれる。

○筑波大学の情報学群に入学し、ラグビー部で活躍する道を選びました。しかし、『医師になる夢』をあきらめたわけではありません。まだ先のこととなりますが、ラグビーの選手として世界の舞台上で活躍した後、もう一度医学部へ入学し直して医学の道を目指したいと考えています。

【解説】先週の日曜日(5/23)にラグビーの日本選手権の決勝(パナソニック vs サントリー)が行われました。優勝したパナソニックの福岡堅樹選手は、医師の道を目指し、今シーズン限りで引退するため、この試合が現役最後の試合となりました。コロナ禍の厳しい環境にも屈せず今シーズン、14個のトライをあげて優勝に大きく貢献しました。福岡選手のモットーは「文武両道」。福岡高校時代、ラグビーに打ち込みながらも医学部を目指しました。しかしラグビーへの思いも捨てがたく、1浪後に筑波大学情報学群に入学し、ラグビーへの道を選択します。クレバーな福岡選手は、勉強でも練習でも合理性や効率を追求してきました。迎えた現役ラストゲームでも、その俊足が煌めき、有終の美を飾った福岡選手。インタビューで「唯一やり残したパナソニックでの優勝をやり遂げてよかったです。後悔なく引退できます」と語り「患者の心に寄り添えるドクターになりたい」と、意気込みを語りました。日本列島を沸かせたトライゲッターから医師の道へ。福岡選手の挑戦は続きます。総体を終えた3年生諸君、次は君たちの夢への挑戦が待っています。

【福岡堅樹について】5歳の頃に父親に玄海ジュニアラグビークラブに連れて行ってもらい、ボールを持って走る爽快感の虜になる。足の速さは子供の頃からで、中学2年の冬に100m11秒7の記録を出し、高校では運動靴で11秒2を出した。当時、50mも測って5秒8だったという。高校2年で左膝、高校3年で右膝の靭帯を断裂する怪我を負うが、スピードは落ちなかった。大学1年時からレギュラーとして公式戦に出場し、大学選手権での活躍で日本代表への道が開け、ワールドカップでも大活躍であった。母方の祖父が開業医で患者さんから尊敬される人だったこともあり、現役引退後は医学の道に進む目標がある。(参考:「日本ラグビーフットボール協会」選手プロフィールより)

4 今週の話成語・・・「合従連衡」【問題】英語で表現すると？

中国の戦国時代に行われた二つの外交政策。その時の利害に従って、結びついたり離れたりすること。また、その時勢を察して、巧みにはかりごとをめぐらす政策、特に外交政策のこと。(出典:『史記』孟子伝より)

【由来】「合従」は、楚・齊・燕・韓・魏・趙の六国が南北に同盟して、西の強国・秦に対抗するという「蘇秦」の政策。「従」は「縦」で南北の意味。「連衡」は、秦が六国とそれぞれ個別に同盟を結んで均衡を保つという「張儀」の政策。「衡」は「横」で東西の意味。その二つの策を合わせて「合従連衡」という。「蘇秦」と「張儀」は戦国時代の思想家で「縦横家」と呼ばれる。

5 どこがおかしい日本語(その9)・・・どう読みますか？

- ① 歯に衣着せぬ ② 綺羅星のごとく ③ 臍をかむ ④ 腸が煮えくり返る ⑤ 手を拱く

6 今週の一冊・・・重松清の『ビタミンF』（新潮社）です。

このビタミンは心に効きます。疲れた時にどうぞ。「家族小説」の最高峰。直木賞受賞作！38歳、いつの間にか「昔」や「若い頃」といった言葉に抵抗感がなくなった。40歳、中学一年生の息子とじっくりいれない。妻の入院中、どう過ごせばいいのやら。36歳、「離婚してもいいけど」、妻が最近そう呟いた……。一時の輝きを失い、人生の“中途半端”な時期に差し掛かった人たちに贈るエール。「また、がんばってみるかー」、心の内で、こっそり呟きたくなる短編七編。直木賞受賞作。 (参考：本書裏表紙説明より)

【解説】今週は、人気作家・重松清の直木賞受賞作品を紹介します。親の視点で書かれていますので、先生方や保護者の方にむしろお薦めの一冊です。タイトルの「ビタミンF」については筆者自身の言葉を引用して解説とします。『ビタミンF』は、家族を元気にする“読むビタミン”。息子が理想通りに育たなかったり、娘に突然カレンができたり、夫婦の仲に危機が訪れたり……それぞれの形で“黄金期”を過ぎようとしている七つの家族は、次の季節をどんな表情で迎えるのか。夏バテに効く、感動の家族小説集です。炭水化物やタンパク質やカルシウムのような小説があるのなら、ひとの心にビタミンのようにはたらく小説があったっていい。そんな思いを込めて、七つの短いストーリーを紡いでいった。Family, Father, Friend, Fight, Fragile, Fortune…〈F〉で始まるさまざまな言葉を、個々の作品のキーワードとして埋め込んでいったつもりだ。そのうえで、結局はFiction、乱暴に意識するなら「お話」の、その力をぼく(著者)は信じていた。」心洗われる最泣の一冊です。

【作者・重松清について】1963年、岡山県生まれ。出版社勤務を経て執筆活動に入る。1991年『ピフォア・ラン』でデビュー。2001年『ビタミンF』で直木賞を受賞。現代の家族を描くことを大きなテーマとし、話題作を次々に発表している。著書は他に、『流星ワゴン』『とんび』『ステップ』など多数。(参考：本書表紙裏の著者紹介文より)

7 世界遺産を巡る(日本編)・・・第9回は古都奈良の文化財 (世界遺産登録年：1998年)

【解説】奈良は、710年から784年までの日本の首都であり、政治・経済・文化の中心として栄えました。この時代に中国(唐)との交流を通して日本文化の原型が形成されました。また、首都が京都へ移った後も、大社寺を中心にした地域が宗教都市として存続して、繁栄しました。これらの文化遺産には宮跡・寺院・神社があります。当時の宮殿や役所などの木造建築の遺構は今でも地下に良好に保存されています。首都とその周辺に造営された多くの社寺は、現在も法灯を伝えており、8世紀の堂宇をはじめ各時代の建物が残っています。薬師寺・唐招提寺には、8世紀の日本古代建物が残っており、これらは当時の仏教寺院の伽藍を代表するものです。東大寺・興福寺は、主要部分については兵火によって創建当初のものが失われましたが、広大な境内地のなかには8世紀の建物が一部残っています。失われたものの多くは12世紀に再興されました。再興に際しては、当時の新しい中国の建築技術が導入され、その代表的建物が東大寺南大門です。また、8世紀に再興された東大寺の金堂は世界最大の木造建物です。春日大社の建物は主に19世紀中頃に再建されたもので、日本の本格的な神社の伝統によって20年毎の造り替えが繰り返されていて、伝統の様式を今に伝えています。(参考:文化庁HP『日本の世界遺産一覧』より)



8 街角グルメを訪ねて・・・第8回は三瀬村「イブスキ」です。(三瀬村藤原3796-3)

前回紹介した「三瀬そば」に行く途中の交差点から右折してすぐに店舗はあります。オーナーは鹿児島島の奄美大島出身の指宿さんで、1996年にこの地で、ハム・ソーセージ工房イブスキをOPENしたそうです。福岡の大学卒業後、ホテルやレストランに食肉加工品を納める会社に就職した指宿さんは仕事の功績が認められ、ご褒美で出かけたドイツ旅行で人生が変わります。肉がジューシーで旨味があり、ハーブが効いて大人の味がする本場のハムやソーセージに感動し、その後、半年かけてドイツ国内を自転車でもわり、街ごとに特徴の違うハムやソーセージを食べてまわる経験をして一旦は福岡で店を開業します。しかし、本当にやりたかった店は初めのインスピレーション通り、ドイツそのままのハム・ソーセージ店を構えること。そこでドイツに限りなく近い土地を探し、見つけたのが佐賀県の三瀬村。現在、土曜・日曜日には40種類ほどのハムやソーセージが店頭に並びます。三瀬村という田舎にあるお店であるにも関わらず、噂を聞きつけた人が、遠方から車で買いに来るお店になっています。私のお気に入り「ビーフジャーキー」です。すぐ売り切れる人気商品なので、電話で確認してから出かけます。「三瀬そば」・「イブスキ」・「まっちゃんの店」のはしがが我が家の定番です。

9 保護者の皆様へ・・・様々なご意見・ご指摘有り難うございました。(PTA総会返信)

【解答】alliance (同盟・提携)、alignment・alinement (整列・提携・連携・連合)、coalition (連合・連立・合同)

【正解】①歯に衣(きぬ)着せぬ②綺羅星(きら、ほし)のごとく③臍(ほぞ)をかむ④腸(はらわた)が煮えくり返る⑤手を拱(こまぬ)く ①「衣」を「ころも」と読んでしまう誤りが多い。正しくは「きぬ」と読み、へつらうことなくズバズバものを言うことを意味する。②「綺羅星」を一語ととらえて「キラボシ」と読む誤りが極めて多い語です。正しくは、「綺羅」(美しい衣服)が「星」のように輝いて見えるという意味なので「きら、ほしのごとく」と読むのが正解。③「臍」は確かに「へそ」と読むが「ほぞをかむ」が正しい読み。いくら後悔しても取り返しのがつかぬことを悔いる時に使う。④「腸」と書いて「はらわた」と読む。「腹が立って腹が立ってとても我慢できない様子」を表す。「腸が腐る」とか「断腸の思い」など精神的な意味合いで使われる。⑤何もしないで見てること、傍観することを「こまねく」と言うが、正しくは「こまぬく」と読む。「拱手傍観(きょうしゅぼうかん)」と同義。